

<b>株式会社東芝 小向工場 サイトレポート情報</b>	
所在地	神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地
敷地面積	127,149m <sup>2</sup> 、建家面積：172,031m <sup>2</sup> 、緑化率12.6%
設立	1937年12月、従業員：3456人（2011年4月現在 関係会社含む）
主要製品	電波通信機器、マイクロ波半導体、自動化機器
ISO14001 認証取得	1996年10月、最新更新年月：2010年7月 (ISO 認証番号：) EC07J0112



**ごあいさつ**

株式会社東芝 小向工場は、電波通信機器、マイクロ波半導体、自動化機器等を開発・製造するエレクトロニクス・システム工場として、環境に配慮した事業活動の推進・環境調和型製品の提供を通じて、近隣住宅地域との長年の信頼関係を継続しつつ社会に貢献することを目指し、従業員一丸となって取り組んでいます。



環境保全責任者 渡部 勉

**2010年度の環境の主な取組み**

- ☆ ISO14001 環境マネジメントシステム  
1996年10月に認証取得、2008年10月に4回目更新終了、2010年7月にカンパニーとの統合認証
- ☆ 環境調和型製品  
ECP比率を電波応用製品の製品売上高比100%で達成(目標100%)  
ECP比率をセキュリティ・自動化機器製品の売上高比94.2%で達成(目標88.1%)
- ☆ CO2排出量の削減  
CO2(エネルギー)生産高原単位13.2で未達(目標 11.62)
- ☆ 環境負荷の低減  
化学物質排出量の削減対象施設等を監視継続
- ☆ 資源の有効活用  
廃棄物総発生量は生産高原単位で2000年度比で27%削減(目標 28%削減)、最終処分率は0.4%(目標 0.5%)  
水受入量は生産高原単位で2005年度比で27%削減(目標 25%削減)
- ☆ 管理体制の充実  
法令、条例の順守、現場管理の強化
- ☆ 主要協力会社の指導支援  
環境総点検の実施(10社実施)
- ☆ 教育・啓発  
環境教育の計画的実施
- ☆ 地域との協調  
各種環境行事への積極参加、CSR清掃ボランティア活動への参加等

**製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介**



**環境コミュニケーションの紹介**

- ・環境報告書の発行: 2005年度より毎年発行
- ・地域との交流(参加)
  - ・お祭り広場
  - ・多摩川河川敷の環境美化清掃ボランティア
  - ・小向6町内会事業活動説明会

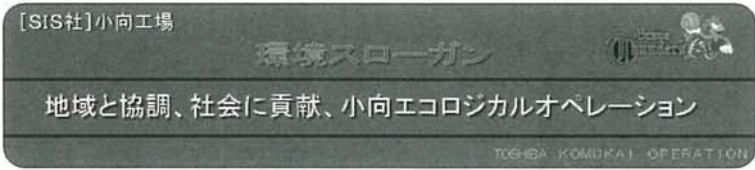
(株)東芝 小向工場 環境基本方針



(株)東芝 小向工場は、電波通信機器、マイクロ波半導体、自動化機器等を開発・製造するエレクトロニクス・システム工場として、環境に配慮した事業活動の推進・環境調和型製品の提供を通じて、近隣住宅地域との長年の信頼関係を継続しつつ社会に貢献することを目指します。「かけがえのない地球環境」を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立ち、東芝グループの経営理念に基づき低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献する事業活動、製品、サービスのあらゆる面で、環境活動を『見る・見える・見せる管理』をモットーに技術的、経済的に可能な範囲で、次の方針で展開します。

1. 環境への取組みを、工場経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境保全システムの継続的な改善・向上を図るとともに環境汚染の予防に努めます。
2. 環境関連の法令・協定、当工場が同意したその他の要求事項及び自主基準などを遵守します。
3. 製品・システムの企画及び開発・設計段階において、環境側面について生物多様性を含む環境への影響を評価するとともに次の環境配慮活動を推進し、製品のライフサイクルを通して環境負荷を低減する技術の開発と環境調和型の製品・サービスの提供に取り組みます。
  - (1) 使用材料の節減、消費電力の低減等による省資源・省エネルギー化
  - (2) 再生・再利用が可能な部品・材料の使用率向上等による再資源化
  - (3) 使用部品・材料のグリーン調達推進
  - (4) 有害物代替化、分解性の向上等による廃棄処理の容易化
4. 事業活動において、次の項目を環境活動重点テーマとして取組みます。
  - (1) 電気・都市ガスの省エネルギーによるCO<sub>2</sub>排出量の削減
  - (2) 化学物質排出量の削減、環境関連設備の改善等による環境負荷の低減
  - (3) 廃棄物の発生低減と分別回収・リサイクルによる総排出量削減、ゼロエミッションの継続推進
  - (4) 水受入量の削減
5. この環境基本方針の達成のため、環境目的・目標を設定し、全部門・全従業員をあげて環境活動を推進します。また、これらの活動をレビューすることにより継続的な改善を図ります。
6. 関係会社、取引先等の指導・支援を行い、環境活動の拡大を図ります。
7. 緑あふれる、地域に開かれた工場を目指し、景観の改善と緑化に努めるとともに、地域・社会との協調連帯を図り、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。
 

— この環境基本方針は、工場内全従業員等に周知するとともに、外部の人にも開示します —

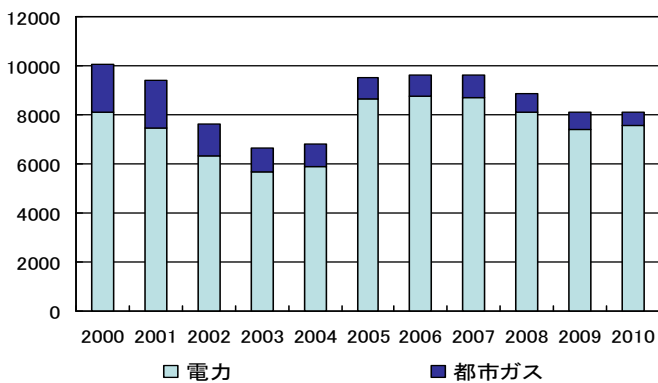


2011年06月03日

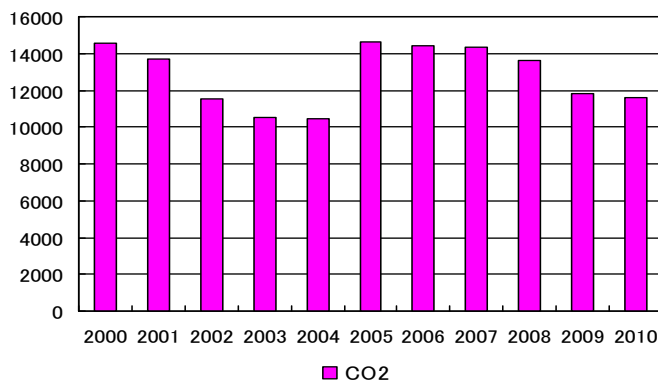


環境負荷データ

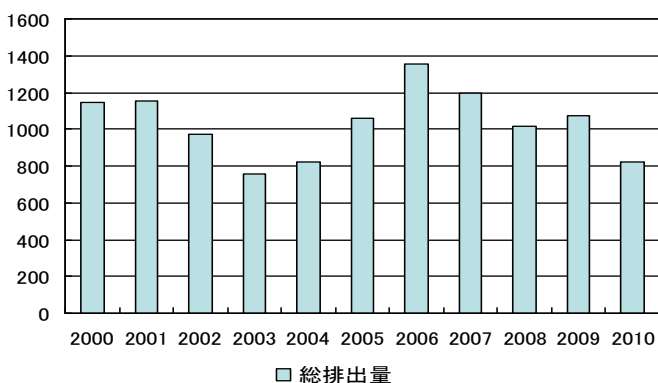
エネルギー使用量(単位:KL)



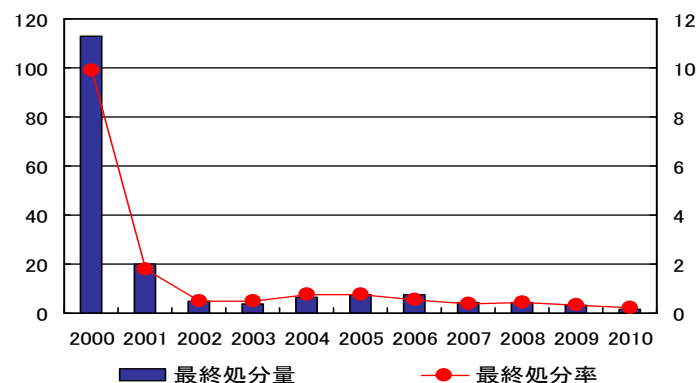
CO<sub>2</sub>排出量(単位:トン-CO<sub>2</sub>)



廃棄物総発生量(単位:トン)

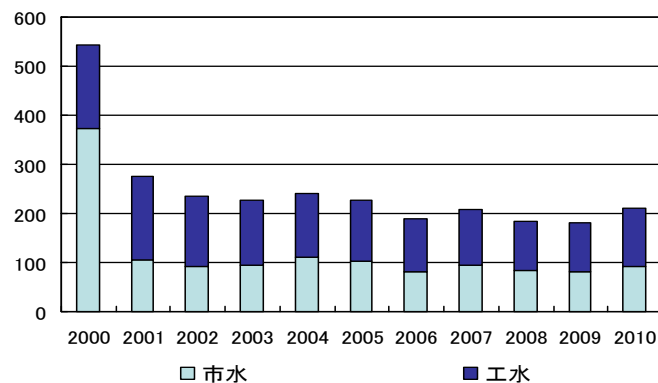


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

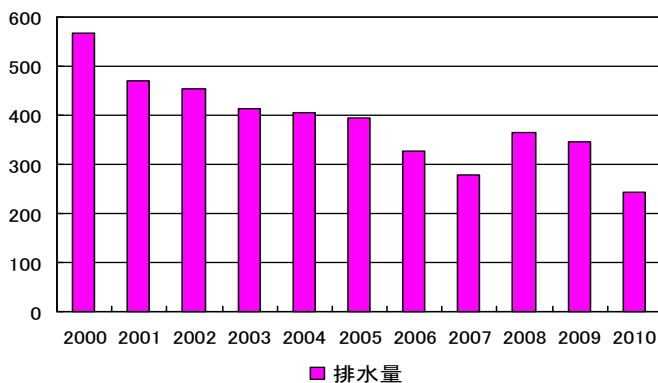


主な廃棄物名:酸、汚泥、金属、ガラス、プラスチック、油、紙等

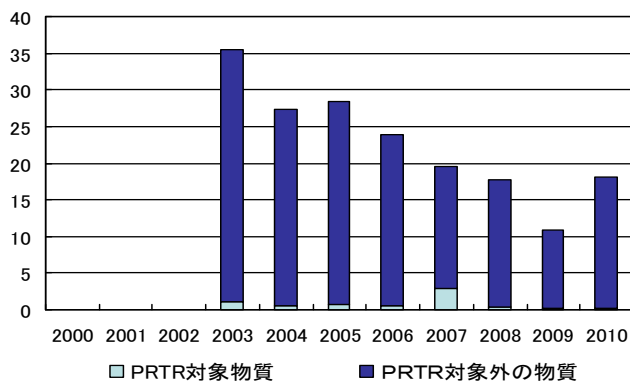
水の使用量(単位:千m<sup>3</sup>)



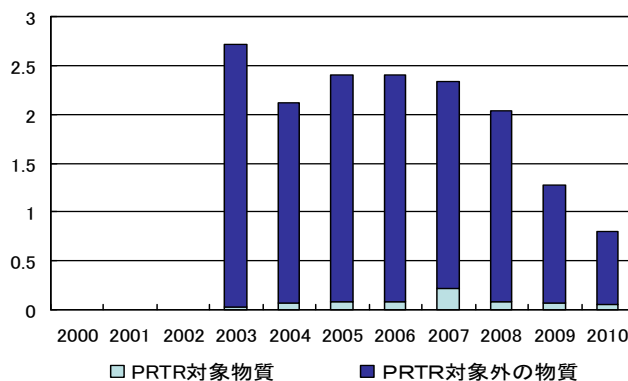
排水量(単位:千m<sup>3</sup>)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質:ふっ化水素及びその水溶性塩、鉛及びその化合物

## 遵法管理状況

### <大気測定結果> 多管式小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 3台

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(g/1000kj)	0.063	0.05	0.0137~0.0318	年6回
SOx(g/1000kj)	0.08	0.01	<0.002	年6回
ばいじん(g/1000kj)	0.05	0.005	<0.001	年6回

### <排水測定結果> 酸排水処理施設(酸又はアルカリ表面処理施設、下水道へ放流) 下水道法

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0~9.0	6.0~8.0	6.3~7.1	月1回
BOD(mg/l)	600	120	0.5~33	月1回
COD(mg/l)	—	—	—	—
SS(mg/l)	600	70	0.5~4	月1回
窒素(mg/l)	240	35	6.9~11	月1回
フッ素(mg/l)	15	13	0.25~1.2	月1回

### <騒音・振動測定結果> 敷地境界

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	70	70	43~64	年6回
	敷地境界:夜	55	55	40~53	年6回
振動(dB)	敷地境界:昼	70	45	<30~34	年6回
	敷地境界:夜	60	40	<30~34	年6回

### <その他測定結果> (最終放流口) 下水道法

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0~9.0	6.0~8.0	6.7~7.5	月1回
BOD(mg/l)	600	120	0.5~91	月1回
SS(mg/l)	600	70	0.5~34	月1回

### <環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし